

令和7年度 遠野市立附馬牛小学校 働き方改革アクションプラン

遠野市立附馬牛小学校では、「遠野市立学校教職員働き方改革プラン」に基づき、以下の取組により学校における働き方改革を推進します。

目指す姿

- ◆教職員のウェルビーイングを確保できる職場。（教職員の心身の健康への意識を高く持ち、仕事へのやりがいを感じながら業務に取り組める職場。）
- ◆管理職と職員及び職員同士のコミュニケーションが良好に図られ、風通しの良い職場。
- ◆業務の計画的遂行と偏りの見直し、効率化により、教材研究や児童と触れ合う時間を確保できる職場。

働き方改革の重点取組

取組① 時間外在校等時間の削減

- ◆時間外在校時間を校務支援システムで確認し、自身の働き方改革への意識を高める。
- ◆多忙月以外は、早めに退勤できるよう呼び掛け、年間を通した勤務時間の平均化を図る。
- ◆職員の健康保持のため、労働安全衛生体制を確立させる。

取組② やりがいを感じる職場・支え合う職場づくりの推進

- ◆「職員の代わりはいるが、家族の代わりはいない」を合言葉に、たがいに、「声を掛け合い」、「支え合い」、「協力し合える」雰囲気づくりをする。
- ◆「報・連・相」を合言葉に、管理職と職員、職員同士が気軽に話せる風通しにより職場にする。
- ◆複次指導を組織的にサポートし、子どもの学びの質を維持向上させ、子ども一人一人に向き合うことができる時間を少しでも多く確保する。

取組③ 業務内容や時間の見直しと効率化

- ◆「教材研究の日」を月1回程度（金曜日の午後）設定し、教材研究や心身のリフレッシュの時間に充てる。
- ◆提案を絞った職員会議を行い、短時間での会議を目指す。
- ◆現場のDX化を図るために、校務支援システム、さくら連絡網の操作方法を理解した上での積極的使用。
- ◆各種会議（PTA関連も含め）の簡素化、縮小化、短縮化。

	現状	具体的成果目標 (数値目標)	関係する 重点取組
目標①	・時間外在校時間について月 45 時間以上、年間 360 時間以上の職員がいる。	・時間外在校時間、年間 360 時間以内とする。	①, ②, ③
目標②	・職場だけでなく、家庭に持ち帰って仕事をしている職員がいる。	・成果を実感したり、働きがいを感じたりしながら働いている職員の割合を 9 割以上とする。	①, ②, ③
目標③	・業務内容の改善が進んでいない。	・業務改善を行うために、自分の考えを聞いてもらえると感じる職員の割合を 9 割以上とする。	①, ②, ③